



日本酒で湯沢の未来を醸す

市では『湯沢市若者や女性が輝く推進条例』を制定し、女性や若者が活躍する社会、男女共同参画社会の実現を目指し、若者や女性のまちづくりへの参画機会を積極的に確保することとしています。

古くから湯沢の地場産業として栄えてきた酒造り。現在も4軒の老舗酒蔵が銘酒を造り続けています。若者や女性の日本酒離れが進む今、各酒蔵で働く女性が何を思い、どう感じているのか、女性の視点から展望する日本酒の未来、湯沢の未来を市長とともに語り合いました。

(聞き手：市広報担当)



女性活躍について

——トップバッターとして京野さんにお伺いします。酒蔵で女性が働く中でどんな強みを生かせると感じていますか。

(京野楽弥子さん、以下「京野」) 日

本酒の国内の消費量が減っていて女性や若者のお酒離れが進む中、女性が酒蔵で働くということは、新しいニーズの掘り起こしや新たなターゲットに対して等身大で考えていくことができるのではないかと感じています。

——秋田県醸造工業さんではA・ribbonという女性社員のグループが活動されていると伺っています。現在の状況はいかがでしょう

(菅美登里さん、以下「菅」) A・

ribbonの活動を知って入社してくれる新入社員が増えてうれしく感じています。経験や年齢にこだわらず、若手のアイデアを取り入れた新商品開発にも挑戦しています。



——山内さんは、責任者としてスタッフをまとめるという立場で心がけていることはありますか。

(山内めぐみさん、以下「山内」) 最

初はプレッシャーを感じていましたが、体力仕事も含め、めっちゃ頑張りました。スタッフに対しては、今の時代に合った働き方の中で良い物を作るように、何よりみんなが気持ち良く働けるようにということ

——皆さんの話を聞いて市長いかが

でしょうか。

(佐藤市長、以下「市長」) 男性と女性と同じことをするのが男女共同参画の唯一のゴールではないと感じています。男性だから女性だからという

かし合いながら、お互いの強みを最大限発揮できることが大事なことだと思います。

湯沢の魅力の情報発信について

——山内さんはこの点についてどう感じていますか。

(山内) 私たち生産者側でも日本酒や

まちの魅力を発信していますが、観光客や飲んでくれた方自身の声で「おいしかった」「楽しかった」と発信してもらうことが大事だと感じています。そのために、湯沢の魅力に触れる機会を各蔵単独ではなく連携・協力して多く作ってあげればと考えています。

——富田さんは情報発信を担当されているとのことですが、その重要性・

効果というものをどのように感じていますか。私はよく木村酒造さんのSNSを拝見していますが、富田さんの個性的な文章が好きです(笑)

(富田絵里子さん、以下「富田」) 弊

社ではコロナ禍を機にSNSを始めました。エゴサーチ※を大事にしている、「飲んだ」「買った」というお客様の声に返信をしてコミュニケーションを取るようにしています。SNS

NSでのお客様の反応というのは蔵

人さんのモチベーションにもなりますので、非常にやりがいを感じています。ただ、羽目を外さないようにと定期的に会社から言われます(笑)

※エゴサーチ：自分自身や自社に関する情報をインターネット上で検索すること



——(笑)京野さんはいかがでしょうか。
(京野) 湯沢には酒蔵以外にも伝統的な漆器産地や国内トップクラスの精密部品の製造工場があるので、そういった『作る現場』を訪れて体験してもらうことで湯沢がいかに“クリエイティブなまち”かということの魅力として発信できるのではと思っています。

——市長は日本酒の状況をどのように捉えていますか。

(市長) 全国各地でさまざまな地酒がヒットして、日本酒の嗜好しこうが変わってきていることは私も実感しています。今の時代に合わせて、女性の皆さんの視点で湯沢の地酒をPRできればまた違う道が拓けるのではないかと感じました。

酒造り(日本酒)の 未来について

——この点について皆さんにお伺いします。

(富田) 毎年市内の小学生が見学に来てくれます。湯沢にこういう産業があるということを感じてもらって、

——今日の感想や今後の抱負などをお聞かせください。

(菅) 女性が働きやすい時代に仕事ができると感じているので、自分たちの良さを積極的に出して、男性へのリスペクトを忘れずに、いいお酒を作って他の酒蔵さんと市と一緒にPRできればと考えています。

(富田) 一年で一番忙しい今の時期を何とか乗り切れそうながしています(笑) 個人的には、家事・子育て・仕事の3つを両立させることを目標にしていて、今後このスタイルはブレずに続けたいです。

(京野) このような形で4蔵が集まって笑いながら話せるというのはとても貴重なことで、こういう場から新しい企画が生まれるのではないかと感じました。ずっとワクワクしていて明るい未来が見えた気がします(笑)

(山内) 思いのほか楽しく、お酒が入ったらもっと盛り上がりそうです(笑) せっかくいただいた皆さんとご縁なので、4蔵と市が一緒になって何かできたらいいなと思っています。

——皆さんありがとうございました！
(一同) ありがうございました。



皆さんに聞いた この冬イチオシのお酒!!



両関

純米酒

両関

辛口ですっきりとしていて香りが華やかなお酒です。いろいろな温度帯でおいしく飲めます。お鍋にベストマッチです。

酒蔵開放 (予約不要) **2月14日(土) / 午前10時～午後2時30分**
※最終受付: 午後2時

問 両関酒造株式会社 (前森四丁目3番18号 ☎73-3143)



福小町

純米吟醸酒

無圧汲み出し

季節限定のお酒です。冷蔵庫から出して10分ほど常温で置くと、香りがベストな状態になります。せり蒸しにとってもよく合います。

酒蔵開放 (予約不要) **2月14日(土) / 午前10時～午後3時**

問 株式会社木村酒造 (田町二丁目1番11号 ☎73-3155)

→ 2月に各蔵で行われる
酒蔵開放の情報も合わせてご紹介



爛漫

純米大吟醸酒

たまきね
環稲

自社田で栽培した酒米を使って、湯沢が詰まった1本です。味と香りのバランスがとても良いので、どんなお料理にも合います。

酒蔵開放 (予約不要) **2月14日(土)・15日(日) / 午前10時～午後3時**
※最終受付: 午後2時30分

問 秋田銘醸株式会社 (大工町4番23号 ☎73-3161)



一滴千両

純米大吟醸酒

ブルーラベル

すっきりした味わいなので冷やして飲むのがおすすめです。焼き魚やお刺身などお魚料理と楽しんでほしいです。

酒蔵開放 (予約不要) **2月14日(土) / 午前10時～午後3時**

問 秋田県醗酵工業株式会社 (深堀字中川原120番地8 ☎73-3106)

その子らが大人になったときに当時を思い出して実際にお酒を飲んでもらえたらうれしいなと思いますし、こういう取組みを通じて子供たちが誇れる地場産業でありたいと常々考えています。
(京野) 弊社では数年前から自社田栽培を始め、“酒米の里ゆざわ”の復活を目指し活動しています。酒造りの面では、湯沢でしか造れないオリジナリティのあるお酒を協力して造ることができれば、市のPRになるのではないかと感じています。

(山内) 日本酒を片手に楽しそうに会話をしている様子は、造る側から見ると感動する光景で、それに自分が携わっていることを誇りに感じています。

日本酒が、初対面の方ともすぐに打ち解けられる、人と人をつなぐ特別な存在としてあり続けられるように酒造りを頑張っていきたいです。



(菅) お酒の製造現場を見学したら、日々変化するお酒が我が子のように愛しくなってしまう(笑)、蔵人さんが一生懸命造ってくれたお酒をもっと広めたいと強く感じました。日本酒は、湯沢の米、水、蔵人さんの技が結集した自慢の宝なので、かけがえのない地域の顔としてあり続けてほしいと思っています。

——市長から皆さんに期待することはありますか。

(市長) せっかくこのように4人に集まっていたいただいたので、4蔵のそれぞれの強みを生かしていろいろなことに取り組んでいただけると嬉しいです。慣例にとらわれない女性ならではのアイデアを期待しています。

